

農作物技術情報 第8号 水稻

発行日 令和7年10月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

◆ 今年の栽培管理から、生育に対応した必要な対策を実施できたか、コスト面での無駄はなかったか等、来年に向けて振り返りを行いましょう。

1 本年の生育経過

(1) 育苗期

県内のは種盛期（50%）は平年より1日早い4月15日頃となりました。育苗期の気温は平年並みから高く推移したことから、概ね良質な苗質が確保されましたが、日照時間が平年より少なく充実度がやや低い苗もみられました。

(2) 活着～分けつ期～幼穂形成期

県内の移植盛期（50%）は平年並みの5月17日頃となりました。終期（90%）は平年より2日遅い5月25日頃となりましたが、各地域とも概ね適期内に田植え作業が終了しました。

5月第5半旬は、気温、日照時間ともに平年を大きく下回ったことから、活着や初期生育に遅れがみられました。

分けつ期は、気温が平年に比べかなり高く推移し、日照時間も多かったことから、6月中旬の茎数は平年比115%、6月下旬の茎数は平年比104%となりました。

7月も気温が平年に比べかなり高く推移し、日照時間が多かったことから、幼穂形成期は平年より2日早い7月7日頃、減数分裂期は平年より3日早い7月19日頃となりました。

なお、6月からの少雨により農業用水の取水制限を行った一部の地域では、生育抑制や葉先枯れ、出穂遅延などの生育への影響がみられました。

(3) 出穂・登熟期

出穂盛期（50%）は県全体で8月1日頃となり、平年より2日早まりました。

登熟期間中、気温は平年に比べてかなり高く推移したことから、刈取り盛期（50%）は県全体で9月25日頃となり、平年より8日早まりました。

(4) 本年の作柄

9月25日現在、岩手県の予想収量（農林水産省東北農政局、令和7年10月10日公表）は、10a当たり534kg（篩い目幅1.90mm）、作況単収指数101、と見込まれています。

2 来年の作付けに向けて

(1) 育苗

育苗設備や人員体制、作業スケジュールをチェックするとともに、基本に立ち返って必要な技術対策（浸種水槽の保温対策、プール育苗等の技術導入）を講じます。また、病害の発生リスクを減らすために、資材の洗浄や施設の清掃などを行い、育苗環境を清潔に保ちます。

(2) 本田管理

ア 初期生育の確保

初期生育の確保のため、育苗管理や移植後の水管理、栽植密度・植付本数をチェックします。

イ 中干しの適切な実施

中干しには、過剰分げつの発生や下位節間の伸長を抑える効果があり、倒伏軽減につながります。遅くとも6月25日頃には目標茎数を確保して中干しを開始できるよう、移植時期や生育前半の管理を確認します。また、中干し期間を延長する際は、過度の中干しは減収につながる場合があるので、強度の中干しを避け、幼穂形成期までに中干しを終えるようにします。

ウ 病害虫・雑草防除

本年は、出穂期頃には斑点米カメムシ類の発生が多く、ノビエや紋枯病の発生もみられるほ場もありました。病害虫・雑草の発生状況や栽培管理について振り返り、適期に防除が実施できるように防除計画を立てます。

エ 登熟を低下させない水管理

登熟前半に高温が続く場合、登熟不良や玄米品質の低下を招く恐れがありますので、夜間かんがいを実施するなど、水の入替頻度を高めます。

本年は少雨により農業用水が不足し、十分な水管理ができない地域もありました。高温年はとくに水が不足しやすいので、土壌を常に湿潤状態に保つ管理などの節水管理を検討します。

オ 適期刈取り

刈遅れは着色粒や胴割粒、白未熟粒の混入率を高めます。近年は高温により出穂期や成熟期が早まる傾向にあります。早い段階から刈取り時期の見通しを立てるとともに、乾燥調製施設の運用が円滑に行われるよう、稼働計画の策定や設備点検などの準備を進めておきます。

カ その他

必要な栽培管理がもれなく実施できるよう、現在の営農体制（作業暦や人員、機械装備）と作付規模を照らして、必要に応じて見直しをするとともに、複数品種の作付や苗質の変更、直播栽培などの技術導入による作業分散も検討します。

3 稲作の低コスト・省力栽培技術の導入に向けて

肥料・燃油価格は依然として高い状況にあります、以下の観点も踏まえながら総合的なコスト低減・省力化に努めます。

- ・ 作付面積の拡大（規模拡大）⇒ 10aあたり生産費の低減
- ・ 生産量の増加（収量増加）⇒ 60kgあたり生産費、生産物10,000円あたり生産費の低減
- ・ 販売単価の向上（有利販売）⇒ 生産物10,000円あたり生産費の低減

岩手県では下記のマニュアルを岩手県ホームページに掲載しています。是非一度ご確認ください。

低コスト稲作栽培技術マニュアル（令和5年4月）

https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/007/686/manual_r0504_4.pdf

岩手県肥料コスト低減技術マニュアル（令和4年1月）

https://www.pref.iwate.jp/agri/_res/projects/project_agri/_page_/002/004/581/hiryoukosutoteigen0406.pdf

岩手県スマート農業事例集（令和7年3月）

https://www.pref.iwate.jp/agri/_res/projects/project_agri/_page_/002/003/505/iwate_smartagri_jirei_v5.pdf

農作物技術情報「水稻」の本年度定期発行は今号で終了となりますが、気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**忘れずに！点検・確認・安全管理
無事故で終わる収穫作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。